

CentreCOM® 8216XL リリースノート


この度は、CentreCOM 8216XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1. ソフトウェアバージョン 2.2.0J

2. メニューから削除された項目


ソフトウェアバージョン 2.0.0J から 2.1.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が削除されましたので、ご了承ください。

2.1 ソフトウェアのダウンロード(ネットワーク上のシステム)について

 参照「オペレーションマニュアル」2-22 ~ 2-25 ページ

[Administration] メニューの [Update software in another system] および [Broadcast updated software to all systems] オプションは、ネットワーク経由によるダウンロード機能がサポートされていないため、メニューから削除されました。


2.2 ウェブからのソフトウェア設定について

 参照「オペレーションマニュアル」2-41 ~ 2-42 ページ

[System Configuration] メニューの [Omega Options] において、ウェブからのアクセス制限を設定する [Web-based Omega Enabled/Exclude Web-based Omega] オプションは、ウェブからのソフトウェア設定機能がサポートされていないため、メニューから削除されました。

ソフトウェアバージョン 2.1.0J から 2.2.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が削除されましたので、ご了承ください。

2.3 ターミナル設定の Generic “dumb” terminal について

 参照「オペレーションマニュアル」1-14 ~ 1-15 ページ, 2-54 ページ

[System Configuration] メニューの [Terminal configuration] において、ターミナルの種類に合わせてソフトウェアを設定する [VT100-compatible/ANSI Generic “dumb” terminal] オプションはメニューから削除されました。これにより、本製品のターミナル設定はVT100-compatible/ANSI のみとなります。


3. 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.1.0J から 2.2.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 登録済みの VLAN ID を変更し、その VLAN の所属ポートを受信ポートとするスタティック MAC アドレスの登録を行った場合、VLAN 名が「Null (not configured)」となってしまう問題がありましたが、これを修正しました。
また、スタティック MAC アドレスを登録後、その所属 VLAN の VLAN ID を変更すると、スタティック MAC アドレスの VLAN 名が「Null (not configured)」となってしまう問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.2 VLAN ID が 255 以上に設定されている VLAN の所属ポートを受信ポートとするスタティック MAC アドレスの登録を行った後、システムをリブートすると、そのスタティック MAC アドレスが削除されてしまう問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.3 通信中のポートでケーブルの抜き差しを繰り返した場合、ケーブルを抜いてもダイナミックに登録した MAC アドレスが削除されないという問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.4 ポートトラッキングが設定されたポートでソース MAC アドレスがブロードキャスト値（すべて「f」）の packets を受信した場合、そのポートで正しく通信できなくなる問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.5 ポートトラッキングが設定されたポートで Ping パケットを受信中に、トラッキンググループのポートに接続されているケーブルをすべて抜くと、ダイナミックに登録した MAC アドレスをスタティック MAC アドレスとして登録してしまう問題がありましたが、これを修正しました。
- 3.6 Ping テストにおいて、対象となる機器が接続されているポートのケーブルを抜き差しした後、[Ping a remote system] を実行した場合、最長で約 10 分間通信ができなくなる問題がありましたが、これを修正しました。


4. 本バージョンでの制限事項

4.1 RMON 機能について

 「オペレーションマニュアル」 2-16 ~ 2-17 ページ

RMON alarm, event は、現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

4.2 マルチキャストアドレスの追加 / 削除について

 「オペレーションマニュアル」 2-116 ~ 2-119 ページ

[MAC Address Table] メニューの [Multicast address] において、[Add MAC address] および [Delete MAC address] オプションを使用したマルチキャストアドレスの追加、および削除は現在未サポートとなっています。あらかじめご了承ください。

4.3 Xmodem ダウンロード機能について



「オペレーションマニュアル」2-26 ~ 2-27 ページ

[XModem software update to this system] メニューを実行後、ソフトウェアのダウンロードをやむをえず中断する場合は、電源ケーブルを接続しなおしてください。

4.4 送信フレームの統計情報「Multicasts」について



「オペレーションマニュアル」2-14 ~ 2-15 ページ

[Ethernet statistics] メニューの「Transmit Statistics Graph」画面 / 「Total Good Transmits」画面において、他のポートで受信したソースアドレス未学習のユニキャストパケットは、「Multicasts」としてカウント表示されます。

4.5 SNMP 機能について

[Administration] メニューの [Reset and restart the system] 実行時(ソフトウェアリセット時)に出力されるトラップは、coldStart です。

4.6 設定変更時のご注意

システムの設定変更(ミラーリング機能設定をのぞく)を行った後は、[Main Menu] -> [Administration] とすすみ、[Reset and restart the system] メニューを実行し、システムをリセットしてください。

4.7 スパニングツリー機能について

IGMPスヌーピングが動作している環境で、スパニングツリー機能を使用することはできません。IGMPスヌーピング機能とスパニングツリー機能は併用しないでください。

4.8 GBIC モジュール(1000BASE-X ポート)について

Half duplex 設定時のご注意



「オペレーションマニュアル」2-7 ページ

本製品は、[Port status and configuration] メニュー内において、1000BASE-X ポートの通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-X ポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社 CentreCOM 9006SX/SC、AT-A15 との検証のみを実施しています。


1000BASE-X ポートのポートミラーリング機能について



「オペレーションマニュアル」2-66 ~ 2-69 ページ

本製品のソフトウェア(プロトコルスタック部分)から送信されるパケット(BPDU、ARP reply、trap など)は、ミラーリングされません。

4.9 ポートセキュリティ機能について

 「オペレーションマニュアル」2-48 ~ 2-53 ページ

本機能では、登録された MAC アドレスを持つ端末のパケットは、Security object port で指定されているすべてのポートで受信します。

5. 注意事項

5.1 GBIC モジュール(1000BASE-X ポート)について


通信になんらかの問題が発生した場合は、光ファイバーケーブルの抜き差しを行うようにしてください。また、光ファイバーケーブルの抜き差しは、必ずTXとRXの両方を行ってください。

6. マニュアルの誤記訂正

6.1 ポートセキュリティ Limited モード設定について

LimitedモードのMACアドレス最大登録数を設定する[Config MAC address limit per port(MAC Address Limit)]オプションの説明に一部誤り(不足)がありました。以下のとおり訂正してお詫びいたします。


Config MAC address limit per port

 「オペレーションマニュアル」2-50 ページ

Ⓔ デフォルトは 0 (ゼロ) で、Limited モード対象外のポートとなっています。

Ⓕ デフォルトは 0 (ゼロ) で、MAC アドレスの最大登録数は設定されません。

MAC Address Limit

 「オペレーションマニュアル」2-52 ページ

Ⓔ 0 (ゼロ) に設定した場合は、Limited モードは無効となり、MAC アドレステーブルは通常の学習機能モードとなります。

Ⓕ 0 (ゼロ) に設定した場合は、Limited モードは無効となり、MAC アドレステーブルは通常の学習機能モードとなります。ただし、学習済みの MAC アドレスはエージング機能によって削除されません。